

< 谷津干潟友の会旗を掲揚する >

ふかんど

№161号

1982.2.17

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五番六
電話 0476-16668
編集 森田三郎

会費 年2000

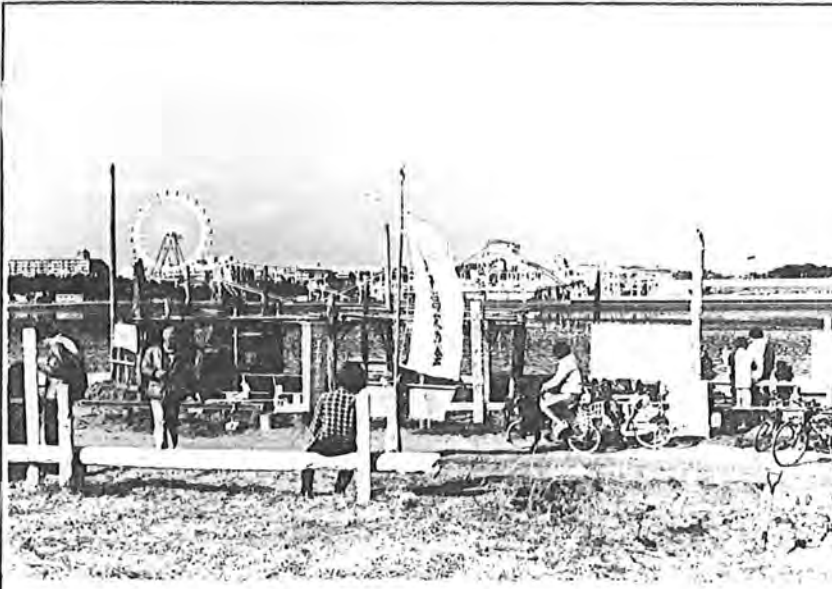
創刊
1980.6.3



立ちました。記念すべき瞬間である。右の所で、子供が一輪車に砂を積んでいる。

「ヤッホー、ばんざーいっ！」。
パタパタと風にはためき、ひときり目立ちます。

五十嵐さんの奥さんが梁めてくれ、長塚さんがぬい付けと用意をし、高木君が丁度良い丸太の流木をさがしてくれました。



旗があると、目立ちますし、ここで何をしているのかが、すぐわかります。



滑車とロープの具合をみて、土台をしっかりとさせています。風は、常にある。

通りがかりの人や、子供たちと手伝わって来ました。

やっぱり、旗がヘンボンとひるがえると景気がつきますんで。こゝからは、毎日曜日、そして休日ごとに、この谷津干潟友の会の旗が「フローネの小屋」のそばに立ちます。

皆んな帰ってしまった草はら。夕べ近くです。風向は温かかったが、この時向になると、風が冷たくなってくるのです。





丘のうち、ヨシ野を貴重になる。今は邪魔者扱いされてるけれど、私はどう思っています。

寒い北風の吹いていた時でも、この中に入ると、案外あったかいです。風が来なくて、日かポカポカあたるからです。数百羽単位のスズメの群が、時々来てさわいでいる。ヨシに囲まれた、小さな草の空地は野犬が好んでひなたぼっこをする。か、谷津干潟のまわりには少ないようだ。囲まれた空地には、ミベリヤのオオムシ冬に来ているコシミズクも、ウジラ〜しながらまごころんでいる。昨年の同じ頃、めったに見られない「トラ

するてんと、大学の教授サマは、知識の大泥棒の大親分、観が、あ、すんでえデスト、ちゅうのは、生徒かどんぐらリカッパラッタか、又、その盗む能力があるかを見た為だ、ヤー現にアンタと人のものを借りてる。修・破・離の言葉とある

フズクシが発見された。同じヨシ野でも、その日の天気によって感じが違ふ。ビエウ〜北風の吹く寒い日は、リカにもさむさむように。逆に、陽気の良い日は、とってもあったかそうに見える。

子供たちにとっては、恰好の遊び場になっていく。やたらとガサノ音を立てて歩いたり、大声で走りまわっている。向くところによすと、子供たちしか知らない「秘密の隠れ家」があるようだ。

こんなせまい所で、昨年、オオヨシキリ、セッカ、ヒバリの営巣も確認された。人の立入りを制限すれば、とっと作らさう。



元禄時代の歌舞伎の名優・坂田藤十郎の芸談を記録した「耳塵集(にじんしゅう)」のなかに、次のような一条がある。
——もし貧しうして、金銀ほしき時、金銀は盗みても有るべし。また道なかに落ちても有るべし。狂言ばかりは、盗まんとおもても、拾わんとおもても、ねからなきものなり。このこと知らぬは、文盲なる下手の役者なり。
解説の必要なむつかしい文章ではあるまい。人間、もし

視点

根からなきものなり

根っからなきものである。盗みたくても、拾いたくても、もともと存在しないものだ。この道理がわからぬ者は、眼の見えない落第役者だ。と、まあそういう意味の文章だが、「狂言」つまり「芝居」を「根からなきものな

赤江 溧 (作家)

り」と言い切っているところが、卓見である。芝居は創造。創(つく)るもの。創り出されるもの。どんなにほしくて、盗んだり拾ったりして手に入るものではない。自分で創り出すものだ。
藤十郎は芝居について語っているのだが、これは「狂言」だけに限るまい。現代われわれの身边でも、この言葉は興味深い。右にならえ左にならえで、創造ということを忘れり、盗んだり拾ったりして間に合う人生を生きている人間たちのなんと多いことか。人は白紙。人生は白生地。自分でなければ描けない絵をその上に描いてほしいと私は思う。

ふかんど

号162号

1982.2.18

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方三丁目五番六
電話 0476-21-1616

編集 森田 三郎

会費 年2000
創刊 1980.6.3

谷津干潟クリーン作戦と 干潟の改善・造成作業

「指紋が無くなっちゃりましたよ、森田さん、すり減っちゃいました……」

そう、最初に気付いて、私に言ったのは、学生の高木世司君である。言わね、私と改めて手を見た。やはり無かった。ノックペラボウ、ツインシルテンなのである。

昨年の年始めの頃である。谷津三丁目の前。今は、「谷津干潟クリーン作戦モデル地区」としてあるが、その頃そこは、谷津干潟で、最大最悪のゴミ捨て場、不法投棄物の山であった。私の背より高い山が四つもあった。又、生活・産業廃棄物が玄の所を一面散らばり、積もり、敷きつめられていた。そののみならず、見えぬ所、つまり、干潟の中、水面下、土の下にもあった。

燃えカス、灰、炭などが、土の下で層を敷いていた。そんな所を、彼と私は、ゴム手袋と長ぐつを身につけ、クマ巾でかっぱいて、くずし、集め、スコップですくって次々とエノウ袋につめていた。殆んど毎日である。とくに、八十年十一月から、八十年三月にかけては精力的に作業した。クマ巾でかっぱくので、ガラス、クワ、針金

、鉄板、砂、石ヤカワラのかげらが散り、顔や体に当たると、二人とも、頭に汗ぬぐいをかぶり、必ずサングラスをつけた。分厚いゴム手袋でも、向きなく穴が空いてしまい、こ水又次々と買ひ替えていかねばならなかった。エノウ袋は、一日に十から五十ぐらいつ使った。殆んど自腹であった。同じ時に、干潟の南、ベンチの方でも、水とは別の日（日曜・休日）に清掃をやっていたのである。又、毎月オ三火曜のクリーン作戦の日には、主婦の人たちに協力してもらっていた。軽い作業だ。彼と私の如き、激しい重労働は出来ない。

一輪車に運ばれたエノウ袋の山が、堤防の下に帯に山を築いていた。主婦にも高木君にも、「エノウ袋の金のことば気にするな、心配すな」と言っていた。

その頃、高木君は、ガードマンとしてある会社にアルバイトに行った。そこで文書にサインして、最後に指紋を押してくれと頼まれた。押した。印肉ベツタリであった。会社の人が、「おや、君、指紋が出てないじゃないか？」と言ったようだ。彼、そんなバカな、と思いつながら自分の指を見たとのこと。無かったのです。しょうがないので、指紋が残った指で用を足したという。ゴム手袋の中に砂が入るので、スコップやクマ巾、袋を持ちたりして作業していった間に、手袋の中ですり減っていたのだ。

指紋が無くなる

あおさかみたりなたき'とりは
はじめてだった

みんなにおねがい!
 ここにはとりやかに~~は~~とかか
 いあす。おたさんかごみやあさかん
 なじあすてるしやたなく
 なったりとりやかにない
 いなくなっているなくなっ
 てしまします。これからむびみや
 あさかんたじあすてない
 ようにしひくたさい。おねがい
 します。☆みなさんへ。
 わたしのおねがいはあするはす。
 なすて
 ！
 ？
 ！
 ？

ぼんた、え
 男の子かよ

この女の子、谷津干潟にはよく散歩に来る
 という。近くの秋津田地に住んでいる。
 今日は、家の人、近所の人といっしょに、
 鳥を見に来たのである。ここが谷津干潟
 だということは、もう皆んな知っていた。

ここは、谷津干潟クリーン作戦モデル
地区。彼らはカニを取りに来たとのこと。



子供は、何でも遊べるの
が好きらしい。ハシゴにも、こんな使
い方があったのだ。



ふかんど

№163号

1982.2.19

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-31-1666
編集 木村 田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

とし私が、当時入会していた団体の、組織の一員、あるいは会員としてとどまっていたら、孤立や無視もなく、そして、これといって「赤字」をなすこともなかったろう。

でと、その代り、テーブル・ベンチと、「フローネの小屋」と、数あるいろいろな看板と、谷津干潟通信箱と、クリーン作戦と、コアジサミ・ミロチドリ・コチドリの繁殖調査と、埋め立て地でのいろんなことと、セイタカシヤの見張りど、「干潟の子供たちの絵」と、「谷津干潟自然教育園」の絵と、現在の草はぐと、そして「ふかんど」などは、みんなやらなかったと思う。

いつと、最初から最後まで、みんな「赤字」だった。私は、よき会員であることよりも、少しでも、どんな小さなことでも、干潟やその生きものたちの為に何かしてやれることと、常にいちばん大事なものとて来た。すざしこの方

八年間、私の「心の安らぎ」は、会合や方針、会員ということやその会の方々の意見ではなかった。たった一つの卵、一匹のカニ、一つのゴミなど、守ったり捨てたりしていったものの中に、常に、いつもあった。

ずいぶん相談したのであった。しかし、出来たことと出来ないうこと、どくらい出来たか、どうしたら出来たかという行動に關しては、至って力が弱かった。地元団体の行動力、活力の低下は、今に始まったことではなく、四、五年前からはっきり出ていた。私は何回もそのことと、原因を言った。が、だめだった。運動が行き詰まることや、団体間同士の争いがまいてくことなども、組織のエゴや主権が、やがて、干潟とよの生きものたちを守るこ

とよりも大事にされてしまつようになつたことと。しょうがないので、一人で、つまり赤字でやったのである。争いにエネルギーを使うのはいやなので、孤立「赤字」を懸念したのだ。ただ「ふかんど」は、別の意味で赤字です。

「ふかんど」も「も」物なましますの執念には恐れ入ります。

こころは、赤字にはなつては、さつや、とやめると決めますから。

「推察」か、ふかんどをよよやめよ。となり、ナリと。...は事ははるから、運命者」と、生活の難儀に苦しんでます。

松下竜一氏より へ 豊前火力絶対阻止・環境権訴訟をすすめる会 代表



二月十六日に行るべれました。主婦中心のほうのものです。
写真のゴミがそうです。袋の数、およそ五十近くあります。前回から今回までに拾ったのが、これだけです。三分の二以上が、カワラ、石、カワラ、鉄クズ、灰などです。

絶望的に人が少ないのですが、たとえわずかで、たゆまず清掃は続けていきます。このゴミは、習志野市民が捨てて来たゴミです。下の写真も堤防の下に集めたもの。これだと、市は持っていつてくれません。へん蔵省所有地なので、

ところが、上の写真のように、市の管理する所である、堤防の上にあげると、市は持っていきます。そのキヨリ、堤防を境にして、わずかニメートル足らず干潟の中から、ゴミを出すと、ゴカイ・カニ・草が待っていましたと出てくるのです。

野鳥の会の人はおく熱心なごみねえらいとよまいます。いつもモ物をあはれ心してあつたよとよまいます!
私たちは今年冬(S57)から干潟の観をくせしていま、観の結果かてたら、いろいろ野鳥の会の方のためになるとよまいます。

この一年ぐらいの間、谷津干潟を、観察や調査のフィールドとする人が増えている。小学生から大学生までです。どちらかと言うと、年がゆくくなる程、ゴミや石を投げたことが多くなっている。
高校生、大学生の生物サークルで、現地案内すると、卵やヒナを持つて来てしまったこと、一度や二度ではない。「返えして来い」と言う。が、今卵やヒナをとった菓の所が、わからないのである。(注意散漫)

文中「野鳥の会の人」、更には、私達のこゝです。

主婦という、強い味方

〈宮川郁子さまより〉 3/20

お元気ですか？

16日の干潟そうじに参加できず本当に残念でした。今我家は親子でインフルエンザにかかり、フーッフーッいっています。発熱と吐き気で、すっかり苦しみ疲れ。月に一回のそうじだし参加者がひとりでも多いのがいいので、是非とも治して参加したかったです。どうにも身体が言うことをきいてくれない... とにかくご苦勞様でした。来月にはお祈りに申すつもりです。

森田さん、風邪には十分注意して下さいね！

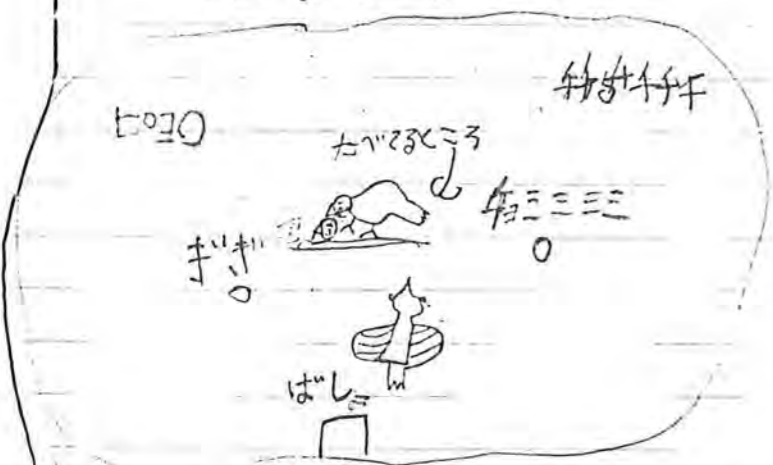
谷津干潟通信箱 ～みんなの声～

みんなの声

もまははこおあかし

みんなのこえ

わつみかた



このわつみかたをいつまでもこのままにしたい。 4-5104

埋め立て地にもこんな所が...



船橋卸団地組合会館内・「いそしぎ」
定食用の為、ここで漬けてお客様に

白菜が、冬の陽を浴びて干されていく。この白菜は、ヤガて、私の口に入り、モグモグ食べられて、「ああーうんまかった」とお腹のたしになるのです。ここでは、時々こうして芝生の上に干すのです。埋め立て地にも、こういう光景が日常のそのとして、ふつうに見られるようになりました。他の人には何でもないことですが、私には、こうして実をとりたく

らしい、気を留めるものなのです。かつて、ここの一帯に、コアシサシ、シロキドリガヒナをたくさんかえして置きました。少し草が出てくると、ヒバリ、セツカガあちこちに巣を作り置きました。七年前の五月中頃、歩き疲れて風よく草原の中に座っていたと、初夏の空にはやかましい程にヒバリとセツカガが鳴りついていたのを憶い出します。散在する大小の池には、ガマガ一面に生い茂り、バンの親子やカモの家族、サギたちが羽根を休めて置きました。秋には茶色のがマの穂がは観望でした。そして、その上を、赤トビの編隊が流れる如く飛んでいったのです。埋め立て地のベトコン如き恰好をして、一日中誰とも口をきくことをなまぼつき歩いていった男が、今は、ホッキとした「お客様」になってご飯を召し上がっているのです。ヤガて、大根を干すようになったでしょう。

わたなげまこと

「谷津干潟クリーン作戦」の旗ができました

ふかんど

第165号

1982.2.21

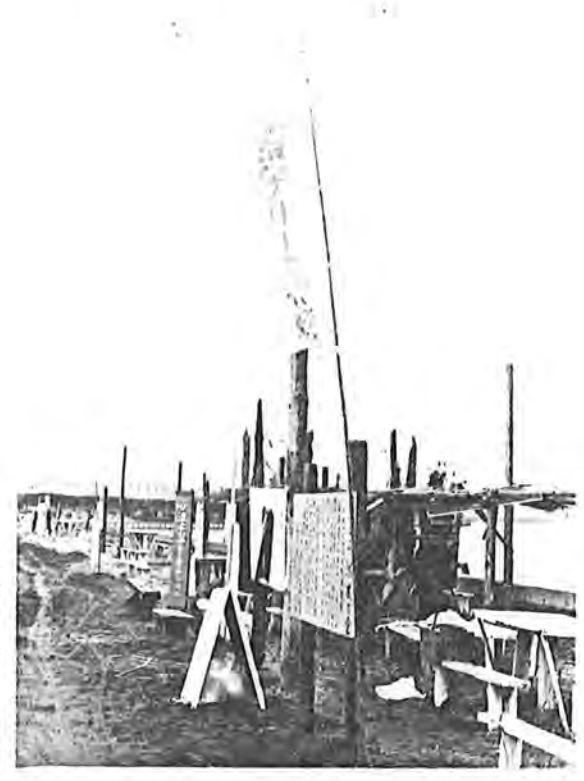
谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-1-1666
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

写真の如き旗（ノボリ）が、合計四枚出来
ました。

采めたのは、五十嵐さんの奥さんです。そ
して、ぬい付けは、長塚さんがやってくれま
した。谷津干潟クリーン作戦と言つてと、奥



さいには、毎日日曜日は勿論、毎日のよ
うにやっていきます。これから、日曜
休日のためにこの旗を掲げたいと思いま
す。（写真は二月十四日（日）・雨）
旗を立てたこの日、雨が降って来てし
まいました。嵐勢がいいように見えま
しょうが、実は、干潟の清掃をしてい
るのは、私たった一人、きりなんです。旗
の数のほうが多いんです。どだい、愛護
会は、いつか指のびばかりしてきまし
た。だから、何でもなり、当り前のことな
んです。

ついでに、この日考えたことに、実は、

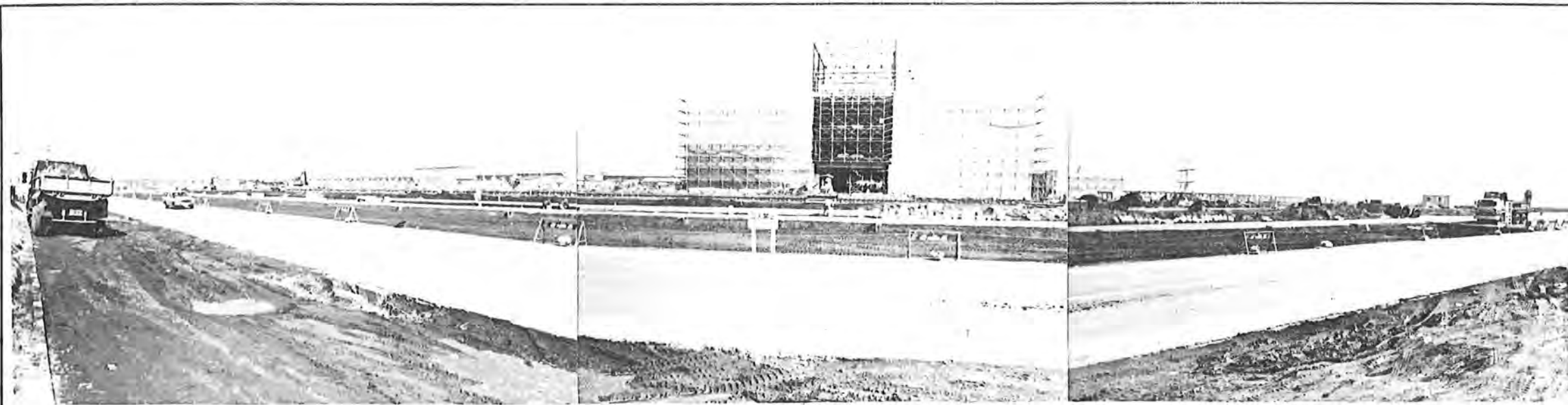
「谷津干潟クリーン作戦音頭」

を作つてみようかなあ、ということにし
た。寒の中、ゴミを捨てるから、パツと
ひらめいたのです。皆さん、いかがなさ
んでしようか？。出来たら、踊りこ
入れたりわけです。作詞は私が作ります
。誰か、作曲をしてくださいませんか
。くんだりん、バカくしい、オッチョ
コチョイとは思わんか、ー、ーとお思い
でしよが、いいえ、私はとっても真面目
でございます。さらにもうひとつ、

「谷津干潟節」も考えて

ございます。作詞はもう、大体出来てお
ります。機会がありましたら、森田、
ト声をはり上げて歌わせていただきます。

船橋御田地ヨリ谷津千潟方面



谷津千潟のまわりでは、あちこちで工事が行われていきます。

写真の建物と手前の道路と、この三月に完成します。建物の会社は、時計の「精工舎」です。

「千潟の思い出」の絵の中にある、「網更

きいさん」、千潟の子供たち「の絵の所が、この建設中のビルの所でした。

これから多くの会社が出てきます。企業関係者も多くなっています。写真の直路は、そと埋め立て地に建出した会社の「動脈道路」です。そんな中を、「千潟の今」シドン屋」如き私の車かまるのは、一つの「ツツパリ」か。

来るか、コミミズク、この杭に

冬の埋め立て地の草原。写真の杭の下に、コミミズクのペリットがありました。フンも白くついていました。左が、埋め立て地ヤ千潟の渡り鳥の写真を撮り続

けている五十嵐さん。右が、かの有名？なポルノ映画のシナリオライター、前田さんです。

杭を見つめた二人は、まわりの地形からどこにカメラをセッティングするのがよいか、いろいろ考えているところです。



まだ、ネズミさながら、と喰っている写真は撮りません。温かくなったら鳥は北へ帰ってしまう。「前田さん、アタシはシナリオライターでしようが」。

Vol 166 遺失

「合格受験番号3867まで、がんばってね・・・」

ふかんど

創刊号

1982.2.24

谷津千瀧愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
電話 0476-1-1666八
編集 木村田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

大きな目で、瞳をまともに私へ向けたまま、そう彼女は言うのでした。

何のことかというのと、つまり、こういうことだったのです。高木恵美さんへ県立八千代高校三年生が、今年、東京女子短期大学を受験して合格しました。

かゆてより内心気にかゝっていたが、固きすらくもあり、「決まりやあ、何か連絡してくんだらう・・・」と考えていた。そんなある日、たまく家へ立ち寄ったら、その日がちようど発表日だったのである。

知らされるやいなや、私は、「よかった、よかったあ、まあ、おめでとうっ」と言っ、肩をたたいて握手をしてその労をねぎらったのである。

やゝしばらく話を交え、喜びのおすそ分け、を頂き、その余韻に浸って楽しみ、ゆっくりくつろぎながらお茶を飲んでる私だった。その時である。テープ

ル越しに座っていた恵美さんから、身に余るような励ましとお願いの言葉があったのは。いくぶん笑みを湛えつゝ、「森田さん、あのね、アタシの受験番号ね、3867番だったのよ、んでねえ、合格

の記念にその番号までね、「ふかんど」を出して欲しいの・・・」とおっしゃるのでした。「ええっ!!」といううーん

「うーんねえ・・・」とまあ私は、比較的肯定せざるを得ない言葉しか出なかつた。

かわい顔をして恵美さんか、かくとやさしく言われたものゝ、森田、はるか遠くの先行きと思えば、身に余るといえ、又身を細る心地でした。私は、「有難う、恵美さん、何とか大いにガンバリマス」とは言えませんでした。

ここにきて、実は、うしろのことが三つありました。三人の女性の学校が決ったことです。一つ、松永香さん（磯辺高校）が東京農大に。二つ、吉田千祥子さん（真向小）が成蹊大付隣中学に。三つ、上記の高木恵美さん。この三人のことがそうです。十日足らず

の間に、次々と知らされて、私はよこんでいたので。今は、「あー、よかった、皆んな決って安心した」と思っています。

オッチョチョイのおせっかきも知らせんが、森田は、自分の事の如く安心し、そしてよこんでいます。

近頃、余り心が晴々なり日が多かつたし、確かに気が萎え、悶々としたこともありません。きっと、そのせいというのと一因になつてか、かえって人ごとながら、自分で思

外なほど、三人の娘さんのことであらうさを感じ、わがことの如くよこんだのだらう。おかげで、何だか元気が湧いてきました。三人の方、「ごちようさまでした」。又やります。

高木恵美さん、松永香さん、吉田千祥子さん、皆んな、おめでとうござります。

お振込は千葉銀行012-54253
谷津千瀧愛護研究会

できるぞアサリ栽培

夢は年100億円の生産



干潟に張られたオイルフェンス—この周囲に沈めた砂箱でアサリが育つ

県水産部がユニーク漁業

自然がよみがえりつつある東京湾の浅いところにオイルフェンスをはって、海水のよどみをつくり、アサリの稚貝を効果的に栽培、採取する方法が見つかった。県水産部と水産試験場が開発したユニークな、原始的栽培漁業で、五十七年度から船橋、水更津両市内の三漁協に補助金(総額五百万円)を出して生産に着手する。

オイルフェンス張って 稚貝がすくすく

木更津以北の東京湾内湾はかつて、干潟が縮くアサリの宝庫で、年間約七万八千石もとれ、全国の総水揚げ高の半分以上を占めていた。ところが、臨海工業地帯の埋め立て地造成で、大半の干潟が失

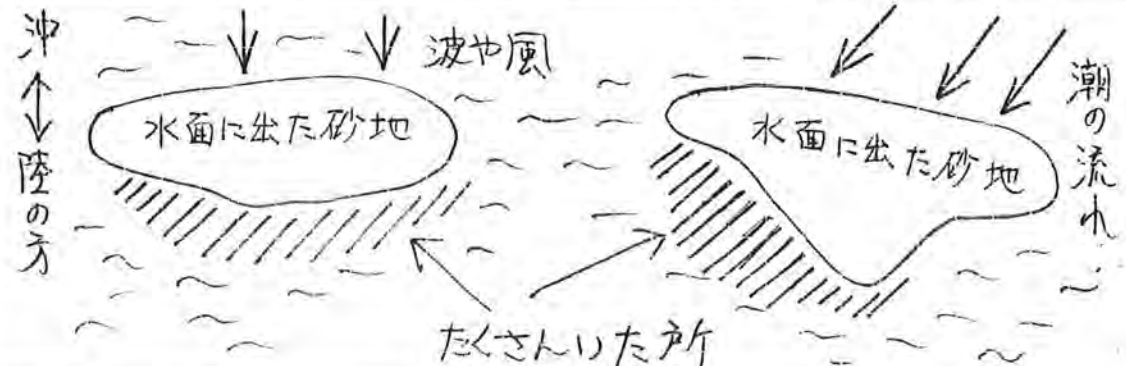
オイルフェンス張って

稚貝がすくすく

わけて、稚貝の育つ場所がなくなり、五十四年は一万七千石、五十五年一万五千石、五十六年は一万石と将来が危ぶまれていた。

この結果、オイルフェンスに囲まれたところは海水の流れが止まるため、天然のアサリの卵からふ化したO・ニがほとんどの稚貝が、砂箱の砂に沈着、半年後には砂箱から七、八割に成育した稚貝が、約六割もとれることがわかった。アサリは年一回産卵するため、半年サイクルで稚貝を採取、育成すれば、一組のオイルフェンスで年間約五十石の成貝を生産できる見通しという。

同水産部では「稚貝の沈着を多くするため、潮流部の面積を広げる効果的なオイルフェンスの張り方など、まだ改良は残されている」としているが、向こう三年間で沿岸に残された干潟に四、五十組のオイルフェンスを設置し、この数年間千億円以上をまっていた生産額を五十億円程度に伸ばし、将来は百億円が夢、という。



そう、二十五年以上も前の、広大な干潟があった頃のことであります。干潟の沖の方へ貝をとりに行った時。水が残っている所と、水面から干潟の出ている所が、入り乱れたようになって、いろいろな形の島状の干潟があった。子供の私は、いつしか、「どんな所なら貝がいっぱいよ小んのかなあ、ー、ー」と考えていた。勿論、子供だから、それ程いろんなことを知っているわけではなく、経験とない。それでも、子供は子供なりに、ととく無く頭をせりいっぱい使って想像力をたくましくして、「もしオレがアサリやハマグリだったら、どんなところに住もうか

なあ、どんなところが気持ちいいくて、ゆっくり出来んかなあ、ー、ーなどと、キヨロキヨロ貝まわしなから思いめぐらしたものであった。それで、あつちを手でさぐったり、今度はこっすつと、いっくやっていたのであった。大なり小なり、年がら年中思うこともなく思っていたといっつてよい。その結果、体験した限りでは、次のような所に貝がたくさんいるのがわかった。
一、波や風の影響が小さい所。二、潮流の力が余り当たらない所。三、杭のつけ根の下とそのまわり。四、ノリひびや何かがある時はその下。五、海藻がある所では、その海藻の下になつていたり所など。
以上のようなことが思い出されたのである。

やはり、子供の私の経験の結果は尙違っていたのだから、今頃までどうしてこんなことが...

ふかんど

第168号

1982.3.3

谷津千鴻愛護研究会
〒272 市川市本北方二ノ三三三
電話 0476-1-1666

編集 森田三郎

会費 年2000
創刊 1980.6.3

心のやすらぎ

それは、夕方の、五時半から六時ごろである。

今時分だと、夕焼けで空を埋め立て地を赤く染めていく。まだ寒い日と多いけれど、だいたい白がのびたんだなあと思う毎日。

この時向、毎日決って、船橋印田地のいそしぎでコーヒーを飲み、軽食を食べている。毎日決った時向に、決った所で、この同じことが、今の私にとって何よりの「ごちそう」であり、心はおろか身をやすらぐのである。

しかしそれは、求めたものではなく、決めたものでもなく、何らの作為の結果によりてあったものではない。ただこうしてゐるだけで、いざゆるだけで、私は「感謝」なのである。

今日も千鴻で激しい作業をした。昨日とそうだった。そして明日とそうである。毎日同じことをやっている。温かい日、冷たい風の日、雨の日。砂、ドロ、水、ヨシ野、草の根、土ノウ袋、一輪車、スコップ、頭の手ぬぐい、ゴム長ぐつとゴム手袋、ガラス、石、カワラ、いろんなゴミ、いろんな燃えカスなど、毎日同じメニューととっ組んでゐる。黙々とやっ

てゐる。一日三時間ぐらいいが丁度いい。長丁場の、毎日のこと、力は八分目か七分目だろうか。次の日、先のことを思えば、疲れ切るまで、くたびれ果てたまでカ一杯でききこもではない。

毎日スコップが、錆びて一面赤茶色になっている。一輪車の鉄板が、毎日少しずつ錆びてくさり、破けていくのがわかる。

千鴻の清掃、改善、そして庭敷にする、愛護会のほか、個人にせよ、団体にせよ、唯一人としてこの「長途の行脚」についたものはない。月一度でもやれば、それは、全国的に見ても堂々たるものである。

一日の作業が終ると、銭湯に入ると、体の芯まで温かさがしみ込んでくる。とろけそうである。千鴻での、ありとあらゆるものが、代りに、みんな出ていくようだ。きんり、さっぱり、ほっかほかになって出てくる。疲れを寒さと汚水と、そしてうっとうしい気持ちをスッテンテン。

藍色の夕焼けの中、町の中から埋め立て地へと、心地良いけだるささとのぼのぼの気分の私は、「いそしぎ」へと車を走らす。「こんちわあし。」「いざっしやいませえ」。毎日、同じ時刻に同じこの言葉。ドッカーリ戻ってコーヒーを飲む。ノドから腹へ入って行くのがわかる。「あー、今日もいっしょうけんめいやったじと思う。」「コレがあるから、毎日激しい作業が出来たんだー」、店の人、有難う。

(この向、ノートが2つつ、干潟の中へ投げ込まれていました)

いたずらされた、ベンチ 2/4

谷津干潟通信箱

～みんなの声～

TAKE

S2.27 T.S N.N は
鳥の動くけはいがなく ~~振~~カゴものす
ごくひいている天気は、はれていて
風がない谷津干潟は静かである。

松屋 西田なおひろ

天敬崎嶋

TAKABU

S2.28.(日) T.S

杉山&杉んな

鳥は、朝のひいている所だけ
かたまていて、動くけはいがない。
風が少しふいていて、よし。
はたむい、日曜日だった。
鳥とい、しよにあそびたい。

END

も、かいさいんあげる
しまきたかひろがたい

Yakahiru
shmasyoshi
かこいひたさ

3(日) ヨロツク!!

谷津三丁目の前
△クリーン作戦モテル地区V



怒ったり、ガッカリしたら、損しちゃうよ...

午前中、ちよっと立ち寄りみたら、ごうんの
通りでした。勿論すぐ直しておきました。

皆さん、スジ金入りの我々は、とはやこんな
ことぐらいの「へのカッパ」。そうでしょう、い
いですかあ、そしですゆ、これをやった人面が
、これを見た我々がガッカリしてたり、怒っ
ていたり、ムシヤクシヤしてりるのを知ったり
、その人面、どんなによろこぶだろう、満足し
てほほえまらうと、そう想像するわけです。
だったり、つまらないじゃないですか。「いー
ちやめたあー」、そう、それで行きましょう。
つまらないことで知的エネルギーを使わずに、
さっさと建設的なものに向けよう。

Vol 169

Vol 170 遺失

ふかんど

第171号

1982.3.6

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市北方二丁目三五番八
 電話 0476-161666
 編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
 1980.6.3

ゴミの下に、きれいな砂が

層を成し、ムを成す不法投棄物のゴミの下に、そこにサラ／＼とした、とってききれいな砂があった。ゴミと砂は、はっきりと分かれていた。きれいな砂とは全く対照的に、あちこちにゴミを埋めてある。ムが、ここで、あちこちで、一つあばかしてゆく。

きれいなその砂は、スコップですくると一輪車で運ばれ、干潟や砂浜の為に使っている。「サクッ／＼」と音をたてて砂をすくうのは、とってもしいい気持ちである。だから、もしムだけだったら、私達はどんなにうれしうことだろうか。干潟や砂浜の他にも、水溜まりを造り、クリークを造り、ムを造り、島を造り、アシや水辺の草の成る所を造っている

きれいな砂は、見た目にも気持ち良いものであるが、この砂だけでは生物が少ないのである。砂とドロがまじり合っている方が、カニ・ゴカイ・水草がよく生きてくる。

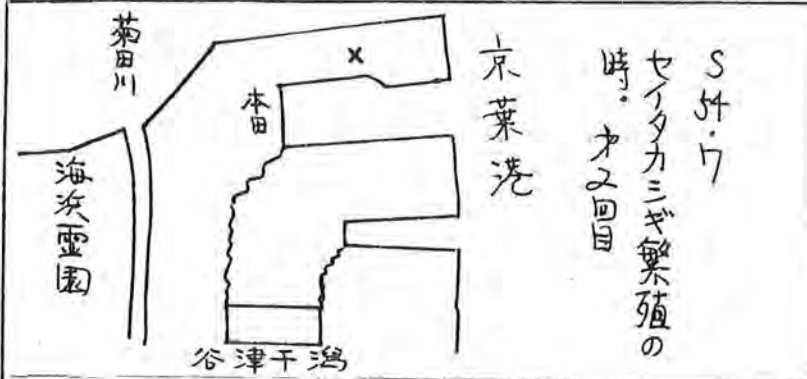
今、この辺一帯に分厚く、赤っぽい砂が多い。十五年前くらい前、谷津道



土の中の、ありとあらゆるゴミは、芋真の如く白い土ノウ袋の中に入る。特にAの所には、まだ三百袋程のゴミのムがある。



園が土地造成の為に使った砂である。ムが、弱い堤防がくずれ、波でもって流れて来たのである。ととく、昔の干潟は、黒っぽい灰色の砂であった。スコップで振っていくと、ムらが断層となって別々になっている。昔の砂の方が粒子が小さく、カニもよくついていた。



「ああーあ、この暑さとだるさ、毎日
 いやんなっちゃうなあ、何とかならぬい
 だらうかー。ゆっくりと寝るべっ
 、うたたねしなからすすす方法はな
 ろうかー」。

炎天下の、何もかもが乾き切ったよう
 な埋め立て地。私ならずと、皆んな同
 いであった。車の中では、更に不快の
 ものである。荷物もシートも水も食べ物
 も、みんなあったかくなっちゃった。
 ウンザリ、グッタリの見張りの毎日だ。
 そこでいろいろ考えて作ったのが、波
 打ちぎわの流木ついた竹と、ガマとい
 う草で出来たこの小屋である。

とにかく、日陰があるだけで全然ち
 がうし、沖のオから吹いてくる風がよ
 入るのである。それに、ゴロリと体を
 横たえていけばよかった。小屋の中と外
 では、まさに天国と地獄であった。パン
 シ一枚だと寒いくらいであった。



ここからセイタカシギの巣までは、約五十米
 。何者かが近づくと、必ず鳴き声を上げた。
 として私は、カバツと身を起こすのであった。

ふがんど

オ172号

1982.3.7

谷津干潟愛護研究会
〒212 市川市本北方二丁目三五〇六
電話 0426-16668
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

京葉港に全国最大の コロニーが

コアジサシのヒナである。

手にとると、とけてしまいうるくらい
の、やわらかい毛むくじやらの「カタマ
リ」である。体長四〜五cmだ。そんでも
、小さな体をふくわしなから、「ピーッ
ピーッ」と、せいりっぱい鳴くのである
。かつて、京葉港の埋め立て地には、こ
のヒナ産の姿が、どこでもいた了所で見
られた。若松田地や袖ヶ浦田地の窓から
、望遠鏡で見るともと出来たのであった
。今の「ララポート」や「オートレース
場」の所にも、こういう彼らの姿が見ら
れたのである。



私のした繁殖調査が、約りゆく干潟と埋め立
て地の実態、それと後世に伝えようべく一助に
となれば、悲涼たる埋め立て地での労苦は、決
してムダでなかつたと思はずのものである。

工事用の車が通ったわたちのアト、そのタイ
ヤとタイヤの間に土を敷き作り、彼らヒナ産はか
えり、育つていったのである。振動する砂利や
砂みずの、一メートルもなり所にも、次々と卵
を産んでいったものである。道路を隔ると、生
まれたばかりの彼らが、「小さな毛むくじやら
のかたまり」が、いっしょけんめいチヨコノク
〜と走り、横切り、身をじっとふせ、逃がてい
くのが手にとらえように見えたのであった。くぼ
地、貝がらのおかげ、土くわのおかげ、板や杭のか
げ、そして暑り砂地の中で、彼らはそれとどう
、ちゃんとかくわつたりなものであった。人影
がまつても、あつたでござらずで、ムク〜と起き
出し、てんで勝ち手に、あつたは親に呼ばれて
走りまわっていた。

手の平にのせると
、死んだふりをす
る。そしてヨーッ
とさす目をあけて、
人向を見、又急心に目
をこらしたのであった。

写真提供

北原龍三氏

昭和54年7月

幕張B地区

ふかんど

第173号

1982.3.7

谷津千瀉愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-166668
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

幼稚園か小学校に入っているか入っていないの、男の子と女の子が二人、堤防の上から、スコップですくった砂やドロの中からゴミを拾い、バケツや土のう袋に入れている私を見て、指を差しながらそう言っているのであった。

「宝探し」とは、こゝまた更に恐入りました。幼児の、ふとり無き眼に映った卒直な印象、あながま、に受け入れた。無理とあままり。麦ワラ帽子をかぶり、長ぐつをはき、キヨロ／＼ウロチヨロしなから、石ヤカラスなどを拾ってれば、確かにそれも見入るだろう。「なに、この坊主、宝なんかあるわけねえじゃねえか。お前らの任んでいままわりのおじさんやおばさんがなあ、こゝみんな捨てたゴミなんだよあーっ、それをおじさんが拾ってんのがわからねえのかあ。森田、そういう気持にはならなかつた。おかしみと、苦笑い、こゝみ上げて来たのである。

しかし、物事は、見方次第、受けとり方次第かも知れない。何故なら、森田、彼ら二人の幼児が言った如く、本当は宝を探しているのかも知れない。否、宝にしよう、宝と仮しようとしていのである。この、谷津千瀉という、宝をそんなふうに、幼児の言葉を聞いて、聞

きなく、その時にゴミを拾いながら思い及んだのであった。

「坊や、ありがとう。おかげでおじさんは、少し心がスカットしたし、一つものの見方のゆがみがったようだよ。なるほど、坊やの言うように、おじさんは宝探しをホントにやっていたんだよ。谷津千瀉という宝を、少しでもきかりにする為に、ゴミ拾いというキツクナイコトをやっていたんだよ、毎日くすくすづつゆ」。すぐさまそう思えたこと、我ながら、「中々余裕があるなあ、ーっ」と思ったのである。

たありない、と、そう考えた事もあるかと思う。私もそう思っていた。しかし、幼児の言葉からとは言え、少しにしてと、ヤル気と元氣と、そしてわずかにと心が晴水やかになるのであったら、私はソレはソレでいいと思っていたのである。

この向、と言ってと二月の中頃、中村紋司さんが私に会いに、作業現場まで来てくれた。前から時々とらっていた手紙の文面から、かなり年上かと思っていたら、会ってビックリ聞いてビックリ、私より一つしか上でなかった。会報にも、「年配々々」と書いてしまったこと、あまりが悪かった。中村さん、来ただけではなく、作業を手伝ってくれた。ヨシの根の張った土をくずし、石ヤカラスを拾ってくれた。スコップの使い方、私よりはるかにうまいのにはビックリしてしまった。

「あのおじさんねえ、宝探しやってんだよあ……」

森田 様

「ガンバッテ下さり」と書いてたのが、とてもうれしかった・・・。

ひと雨ごとに 暖かくなってまいりました。

干潟の鳥も いろいろと 変化の多い頃 と思います。

このたびは 本を ありがたく ございました。

森田さん から お祝いを 戴けるなんて、とても 感激しました。卒業し、一段落したら是非 読ませて いただきます。

今まで 部活が 忙しくて 干潟にも あまり 遊びに行く ことが出来なくて、卒業したら と思って いたのですが、大学の関係で 引越すのは はずす、お父さん 見に行く 機会を 失って しまいました。 とても 残念です。

私は 自然が 好きです。猫や 動物たちが 大好きです。
(もちろん、干潟の鳥たちも……)

これから 大学へ行って 色々な 勉強をして、色々な ことを 体験して、社会のことも 知るだろうし、現実と いうものも 少しは 認識する だろう と思います。その中で 私も、少し でも 動物たちと 守る ことが できたら しあわせです。

動物や 自然を 守る こと —— それは 最も 大切な ことなのに、簡単には やれない もの なのです。森田さん は えらい ですね。尊敬 して しまいます。

私も 森田さん ほど 出来ない けれど、自分なりに、精一杯、動物 たちを 愛して いきます。

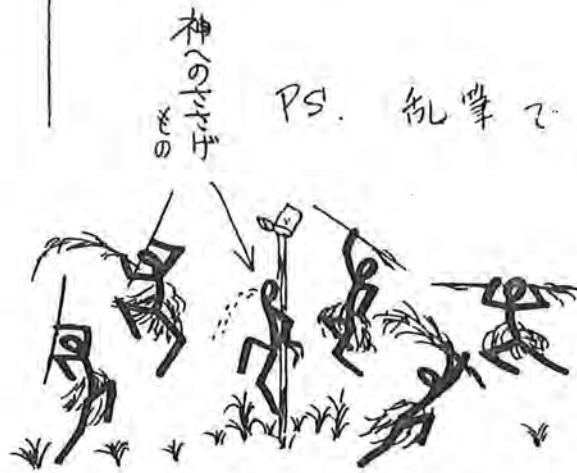
もし よろしかったら、これから も 相敬に のらせて 下さい。そして、“自然保護を やりたかい” と言って、お父さん、まだ 何も 出来ないう 未熟な この 私に、色々 指導 下さい。お願 います。

それでは…… 干潟の鳥 たちに よろしく。

松永 香

557.3.5 (金)

PS. 乱筆 ですみません。



(干潟の子供たち) = 土人の踊り =

今日は 私の 尊敬人物の 1人である 岡田 号の 冒険」といふ 本の 著者で、 最年少で 世界一周を した ロビン という 人の 誕生日です。 書いた 本、もし いる があったら この 本 読んで みて 下さい。

はい、干潟の鳥たちに、よろしくお伝え申し上げておきます。それから、また、はい、つがブ号の冒険をちゃんとして読みます。そして、ちゃんと感想文も書かせていただき、よかったですから、その代り、無断で載せてしまったこと、交換条件とは誠に言にくい、事後報告ですが、つまり、そのお、いりゆるそうさせて頂きます。

ふかんど

第174号

1982.3.8

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
 電話 0476-51-1666 八
 編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

冬眠していたのだから

スコップで土をくずしていった時である。よく石つ口が出てくるので、手を伸ばして拾おうとしたら、いきなりノコノコと動き出したので、ちょっとびっくりした。すぐに、カメだとわかった。

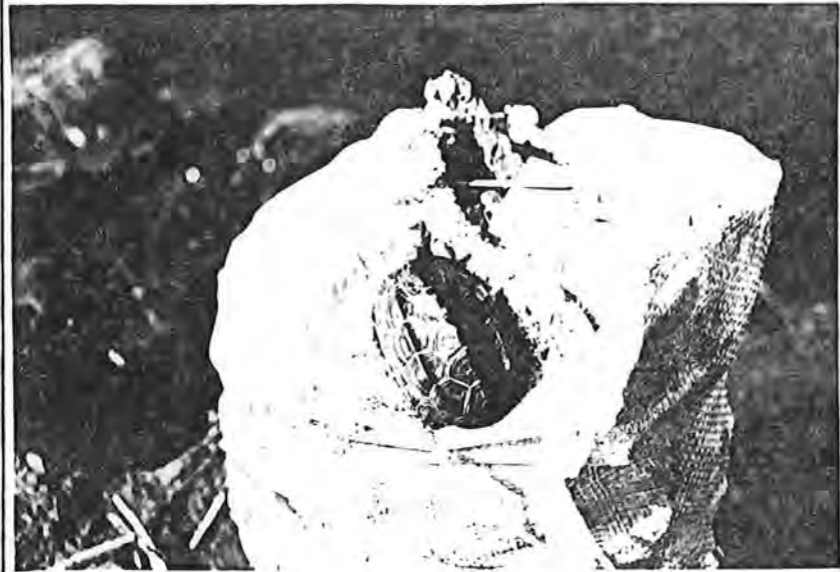
昔から、この辺の湿地である沼や田んぼにはカメが多くすんでいた。沼にはヨシやガマが群生していたし、内陸の沼とは違い、海とは水のでいかにつながっていたので、塩水とかなりまじっていたのである。その後、住宅、道路、マンションが建設されて、カメや魚など、水の生物がすみようする所は全く消失してしまっ

た。子夏のカメが見つかった所は、「谷津

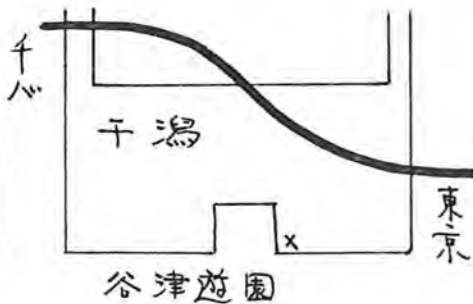
干潟クリーン作戦モデル地区」の中である。谷津干潟で、この種のカメが見つかったことは初めてである。ただ、去年の夏に、東水路で体長5cmの小さなカメが二度発見されていた。甲の形から見ても、別の種類である。

このカメが見つかった所は、東西二本の水路からどっどと流れる所であり、それとスミの方であった。又、わずかながらガマをまえていたところからみると、塩分の少ない所である。潮の流水と殆んどなく、満潮時に水をかぶる程度である。食べ物としては、ゴカイやカニ、あさりや魚ごらひしか考えらるなり。としサギの類に見つけらるたり、食べらるってしまうだろう。あつするどいクチバシで、カメのやわらかい部分、首や手足の所をフッフカ外たり、ひとたまりとあつまり。きっと、ヨシヤカマ、他の水辺の草がたくまえていたのが身を隠すのによかつたの

だろう。そして私は、少年時代、「ふかんど」に大きな海ガメが来たのを思い出した。



略図



初めに行動があった

それしか、言いようがない。やり方や方法、つまり「ノウハウ」はまるで無かったということである。

軍手と紙のゴミ袋だけだった。しばらくして、長ぐつを使用。やがて普通の長ぐつよりずっと長いゴム長を使用した。軍手も、かき回っていたゴミの類はよみが、水の中、ぬかっていたものはダメ。ヤトに寒くなって来た頃、手かためたくもあつた。軍手から、主婦が台所で使うゴム手袋へ。さらにゴム手袋でも、厚めの清掃する人が



使っていたゴム手袋へ。ヤトで又さらに、もっと厚く、もっと長い特殊なゴム手袋へと変っていった。ゴミ袋は、紙製からビニールへ、ヤトから土ノウ袋に移る。

目の保護も考えなければならなかった。砂やドロがはねたり、ヨシなどの草から守る為に、サニクラスが必要になった。頭も、真の如きサンバイザーではなく、ヤトより麦わら帽やタオルを巻くようになった。土の中のゴミをひっかくのには、初めはクマヤ板きかなどを使っていたが、カスガイや鉄の棒へ、ヤトから潮干掬に使ったクマヤ。しかし、ヤトでもツメがすぐひん曲ってしまうので、はるかにかっちりしたクマヤへと。同じクマヤでも、大きなものも必要になった。庭をはく普通のクマヤから、細い鉄線のクマヤに。ヤトで更に、厚い鉄板を使ってあつたクマヤへと移行した。

土キズが断えないので、着っていた服にも注意するようになった。ソカに汗がハナの夫からしたたけ落ちる時でも、出来ただけ長ぐつと長ズボンを着用するようにした。くつ下も、安くて厚いものを。

この後、ロープ、スコップ、バケツ、一輪車、ヒモなどが投入されて来たのであった。こう書いていても、皆、順序立っていたが、振り返っての現実は、その節度出さなくわいて考え、使い出したのである。

今や、我々は、このクリーン作戦、干渉の清掃活動に抜群の「ノウハウ」と経験、「軍備」を持しているのを知ることになったのだ。

石川 勉 氏(右)

東京都中央区日本橋
浜町二丁目4



カウント(鳥を種類ご
とに数えること)の技術
においては、全国的にと
トップレベルだろう。

谷津干潟の渡り鳥の調
査でも、普通十数人でヤ
るところを小より短
時間で、たった一人であ
ってしまうのである。

谷津干潟と京葉港埋め
立て地の渡り鳥と環境の
変化、石川氏ほど体験し
、知っていた人は他にい
ない。昭和四十九年当時

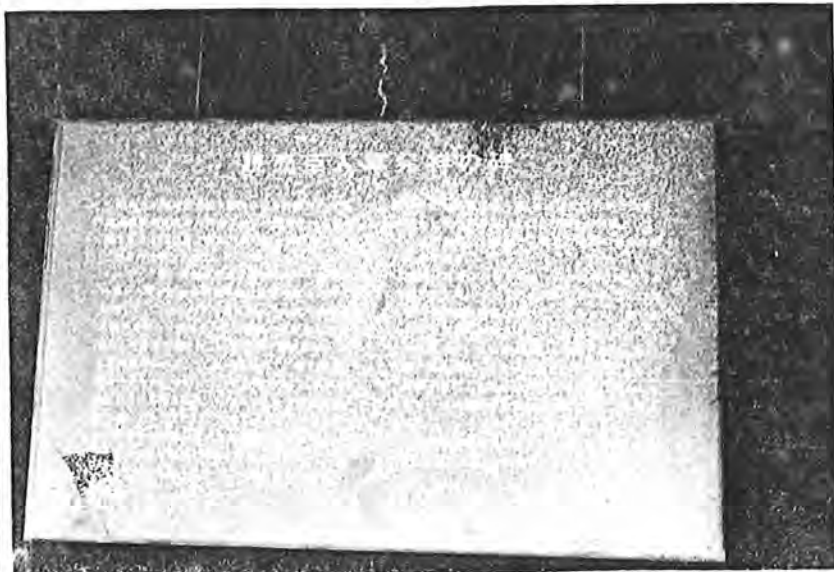
かり、最底週に一度(月曜
日)、日本橋からバイクで
通り続けているのである。

中華料理のきびしい休業
を経て、今は自ら経営して
いる。自らの意志で、全て
自費で調査をしている。こ
の人の如く、谷津干潟を調
査しようとしてみた、団体あ
りは個人は、未だないの
である。貴重な人であり、

頭か下がりはかりである。
通うのに寒かった冬も終
った。どうかいつまでも無
事故であって欲しいと祈る。

巨人軍発祥の地

△ 谷津遊園 △



京成電鉄・谷津遊園が、巨人軍発祥の地で
あることは余り知られていない。

ここは現在、東洋一といわれる世界各国の
バラが集められたバラ園となっている。私が少
年だった頃はまだ、今

のバラ園は全くなく、
広い草はらと野球が来
来る程度のグラウンド
がそっくり残っていた
。すぐ隣には野外ステ
ージもあった。野はら
に立つと、目前に海が
あって干潟がズーッと
沖まで続いていた。潮
の香が気持よかった。

Vol 176

Vol 177 遺失

ふがんど

第178号

1982.3.14

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三番六
電話 0476-6666
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

干潟の造成・改善・清掃

午前十時～十時半頃アパートを出る。

どんな天気でも、ヤル気の有無に關係なく、心が明かろうか暗かろうか、「物理的・機械的」に生ることにしている。

今日どれくらいやるかは、場所の具合・体調・時間の、いわゆる「三者会談」の複数の要因で決まってしまう。私はつくづく思っている、「ヤル気が有るから、行く」というのには一理ある。か、一理だ。あとの一理、つまり五十%は、「行くから、ヤル気が出るのだ」とも言える。

と。良い意味での、天性である。要するに、ヤルコトが目的だから、その為になじものは、有形・無形にかかわらず、少しでも役立っていきたいのである。利用していきたいのである。

次に、「いとしぎ」の船橋印田地内へ入る。とにかくだ、行って、入って、座って、コーヒーを飲む。しばらくしたら食事する。そう、要するに、以上の手順に従ってヤルばいいのである。くどいが念のためにとう一度、夫の良し悪し、ヤル気の有無、心の明暗、何を思っているかが、見通しの有無、体調の如何、その他をくく。それはそれである。あながまに、認め、甘受し、肯

定を否定もせずに、そのまんまひたすらに、引きずっていったらいいのである。それから、気を使って考えていたり、損しちゃうぐらいにわきまを、あしうておく。さて、コーヒーを飲み、腹がふくらすと、闘志、ヤル気が出て来たのだ。他の人はいざ知らず、とにかく私はソウなのだ。今の私には、どんな理論や理屈よりも、この生理的・動物的条件が整えば、自然保護云々という言葉はいらぬ。アトはオレに任せようという事である。

店を出て、現地、干潟へ行く。着がえ。とにかく、着がえなのだ。「おい、森田、ウロウロ、キョロウロ、するな、着がえ。ただ着がえろっ。そんな調子である。そして着がえろ、はあさう、ヤルしかない。そうです皆さん、ヤル気が有るか無いかは、そこで、その時に決めればいっすすよ、ヤキもキヌもありません。だれにも迷惑がからないでしょう。

四時半、疲れて、汚れて、冷えて、腹が減って、銭湯へかぶる。出て又「いとしぎ」へ。心身一新の心良い疲労とくつろぎで、コーヒーと食事のひと時は、ゴータンタイムだ。この時に、「ああ、何だかんだあったけど、今日は終わったんだ、今日の終りをして、今日一日の終り、としよう、そんな思ひが、自然とこみ上げ、「今日一日をこちそうさま」ってな感じになりました。

くはいっ、とっとゴミを拾わせてもらいます」

ゴミは攻め、「ラン」は守ります。



草が生い茂っているのは、「戦いにくい」のです。燃やしてから、モデル地区において最後の「ゴミの山の本丸」を攻め、格闘します。



こんな所に「ラン」がある

実は去年のうちから知っていました。

ランがある所は、谷津遊園との境です。

不法投ぎのゴミの山を、それこそ次々と

攻略して、戦場が少しずつ谷津

遊園の方へ移っていった時に、初めて見

つけたわけです。

誰かが植えたのかと知れないし、以前

よくあったように、捨てられ植木などの

中にたまくとランがあったって、それか根づ

いてそのまま生きて育ってしまったので

しよう。こんな所に、ランがあるなんて

ちょっと面白いですませんか。

私産も手をつけず、とっとこのままにし

ておきますよう。見守りましょう。

幸い、ランの下の砂はきずりだし、ゴ

ミの山まで、約三米の向があります。

エノウ袋、少しだと高くても四十円（一つ）

以上するんです。森田は、あちこち捜しまし

て、百以上買おうと、一万二十九円の産を見つ

けました。そうすると一万二千円だと、四百

四十三袋を買えるのです。

すごいでしょう、もうそれくらいってうれし

くって、ゴミいっぱい拾っちゃおうと思っ

てんです。ミミチイお話しですが、森田、

ゴミの大群を見、袋の値段を考え、自らのフ

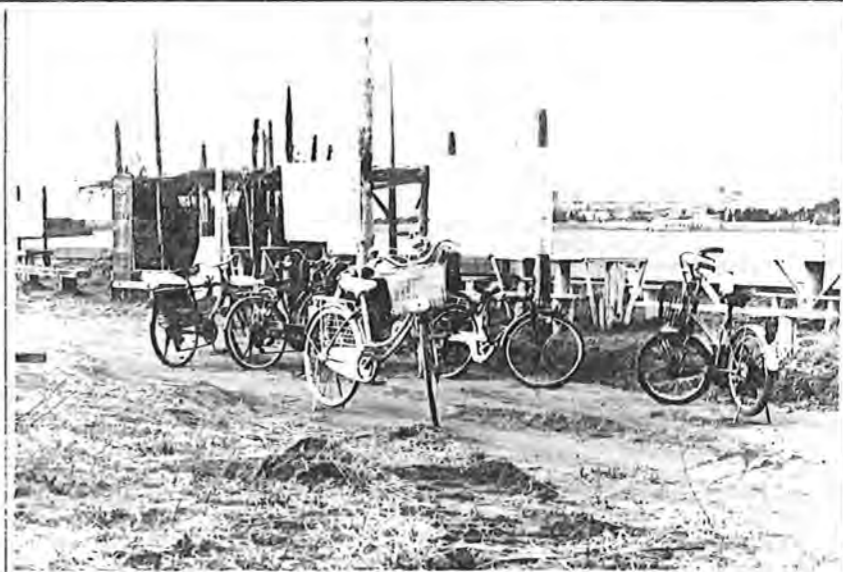
トコロ具合のこの三者、思いあぐんだこと何

回もありました。ええ、何回もです。皆さん、

この四百四十三人袋で、ゴミの本丸を攻めます。

カンパのこと、これからご報告させていただきます。

Vol 179 遺失



午後の三時から夕方頃までは、年がら年いりゅう
 こういう有様である。
 場所は「フローネの小
 屋」である。何だかんだ
 、まあいりんなこととし
 て遊んでいますよ。干潟
 の流木を拾い集めては、
 「変なオンボロ小屋」を
 作ってかわりばんこに中

に入りっぱ、ヤヤ／＼ワァ／
 ヲやってる。
 火遊びとか、石やどのを投
 げていたら、私産はどなりつ
 け、ガツ／＼とあどす。ケッ
 とにうみつ、ドスのきいた
 声でやうことにしてる。干
 潟では、見つけ次第どこでも
 そうなのである。考えてみれば、
 子供産もかわいそうなん
 ですよぬん／＼。

宮川郁子さんから、六箇と

つい先日、クリーン作戦モデル地区で、
 高木世司君と私は干潟の清掃・産作
 業をしていました。午後、そこへ宮川さ
 んが子供を二人連れて、立ち寄りてくれ
 たわけです。

「今日は土曜日なので、幼稚園が早く
 終わったのですから、ちよっ／＼／＼
 ということでした。」

ドラム缶で、いつとこうしてゴミを燃や
 し、そのカスはそのまゝ干潟へ出して



お子さんはまだ小さく、二人とも男の子。
 確か二つ四つだったと思う。(向産えたら先
 礼) 私がかニを何匹かつかまえてヤコと、
 上の子は恐がってダメ、手を広さない。しか
 下の子は、すんなりと手を出す。

帰りぎわに、夏ミカンを置いていつてくれ
 た。作業が終ってから高木君と食べたが、い
 やあ、ほんとうにうまかった。体を使ったあ
 となので、なおさらうまなのかも知れない。
 夏ミカンの味が、腹にしみ込むようでした。

ました。写真の中央が堤防です。この家は飲
 食店を営み、出るゴミは片っぱしからドラ
 ム缶に入れて火をつけていた。

口は干潟の方に向いており、灰だけなら
 まだしも、燃えのこり、針金、ガラス、カ
 ン、ビンまで、こげたやれらを出し続けて
 いた。ここに転居したのは、干潟保護を政
 策とする共産議員の関係であったが、いざ
 ゴミの事となると、全く見て見ぬふりだった。